

積乱雲

第36号 (2014・3)

●編集・発行

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会

鹿児島市卸本町8-20

TEL 099-268-9711

南国真夏の入道雲 JOCVのバイタリティー

(題字・前会長 石神 兼文)



平成25年度 鹿児島県ボランティア家族連絡会を開催



平成26年2月16日(日)、かごしま市民福祉プラザにおいて「鹿児島県ボランティア家族連絡会」が開催され、留守家族10家族15人を含む35名が参加しました。

会は鹿児島県青年海外協力隊を支援する会の衛藤会長、JICA九州市民参加協力課、田中課長の挨拶に続き、来賓の鹿児島県観光交流局国際交流課、林課長補佐に挨拶をいただきました。

続いて田中課長より、派遣中隊員の現地生活における諸待遇や、安全・健康管理についての支援体制を中心にJICAボランティア事業について概要説明があり、その後、現在活動中の隊員から届いた家族への手紙や現地での活動の様子が紹介され、笑いと涙を誘っていました。そして最後に、弓場進路相談カウンセラーより帰国後に受けられる支援や、鹿児島県における帰国隊員の現況など詳しい説明と報告がありました。

終了後、出席した家族からは、「JICAのしくみなど、詳しく説明してもらった事で納得できた。」「同じような家族が近くにいる事が分かり、話もできたので安心した。」「帰国後の就職についても話が聞けたので少し安心できた。」「多くの人と話ができ、楽しい時間を過ごせた。安心して子供を応援していきたいと思う。」といった感想を述べられ、みなさん穏やかな表情で帰られました。抱えていた不安や疑問も解消された様子で、それぞれにとって有意義な時間となったようです。



JICA事業概要説明



昼食交流



出席者全員集合

国際協力講演会開催



平成26年2月16日(日)かごしま市民福祉プラザにおいて国際協力講演会が開催され261名の市民が参加しました。

第一部では、NPO 法人ロシナンテス理事長川原尚行氏による講演会が行われました。スーダンでの医療活動を中心に水環境の整備や教育、交流事業まで多岐にわたる活動の原点は「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という信念。スーダンではまず村長に会い村の人々と信頼関係を築いてはじめて医療が成り立つ。無医村に村落助産師という新しい仕事を生みだしながら、患者を受け入れる町の大病院も支える二方向への支援の大切さを話しました。また、東日本大震災の被害にあった子どもたちと母国の内戦を経験した子どもたちの交流も実現させ、お互いを思いやる気持ちが未来を創っていくこと、それぞれが自分にできることを重ねていくことで世界は変わっていくことを参加者に語りかけました。

第二部は青年海外協力隊帰国隊員による報告会が行われ、園山智子さん(平成23年度1次隊 インドネシア 日本語教師) 榎木翔一さん(平成23年度2次隊 ベナン ソーシャルワーカー) が活動の報告をしました。

園山さんは、インドネシア 西ヌサトゥンガラ州 文化環境局に配属され観光専門学校を中心に日本語の授業を担当しました。仕事や生活を優先させ日本語のクラスになかなか出席しない生徒たちに悩んだ時期もあったといいます。次第に活動の場を広げ、日本語や日本文化に興味を持ち積極的に参加する生徒たちにとってなくてはならない日本語の先生となっていきました。現地の人達と共に自分のできることをする、自分で活動の場をつくっていく実例を生き生きと語られた姿が印象的でした。

榎木さんは福祉センターの職員として派遣されました。多岐にわたる福祉センターの仕事を経験し、2年目からは障害者支援に焦点を当て、地域ボランティアとの在宅訪問支援体制をつくることを自らの仕事とし活動しました。「一人じゃできない」のはいいことであり、それは協力者が必要になることでみんなの活動になっていく。病院や施設がないということは、隔離されることなくみんながいっしょに暮らす社会であるということ。現地の良さを残し、失敗の過程も大事にしてほしいと語りました。



榎木さん帰国報告



園山さん帰国報告



スーダンからの報告

平成25年度1次隊 スーダン 家政 瀬戸山 倫代

日本を出発して7ヶ月が経ちました、スーダンの人、食事、気候、アラビア語にも慣れて、ようやく今から自分の活動を本格的に始められそうです。私の活動内容は、職業訓練センター女性課(食品加工・服飾)の授業を女性の収入向上支援を促進させる内容へ改善していく、というものです。急激な価格上昇や家計補助のために働きたい女性が増えている中、働ける場所の開拓や販売可能な商品の作製技術を身に付ける訓練が必要なのです。もちろん社会で働く女性はいますが、就業のチャンスは少ないのです。

正直手探りの毎日でしんどいときもあります。でもスーダンの女性たちの、面倒見がよくて優しくて、大きな声でキラキラ笑う彼女たちの笑顔を見ると、うだるような暑さも、アラビア語の難しさもどこかに飛んでいきます。



活動先の職業訓練センターの洋裁課で子供服製作の授業を手伝っています。



生徒と一緒に日本の刺繍をした際の様子。



出発ボランティア紹介

25年度 2次隊



- ★ 岩瀬 佐織
- ★ パラグアイ
- ★ コミュニティ開発

パラグアイの人達の生活がよりよくなるよう、一生懸命活動していきたいです。いろんな経験をしてたくさん友達を作って、2年後に元気に帰ってきます。



- ★ 芝生 嘉恵
- ★ ペルー
- ★ コミュニティ開発

中学3年生の時の夢であった協力隊によりよくなることができました。ペルーでは現地の小学校に配属され、生徒や先生方と有機農業に取り組み、栄養改善に努めていきます。この機会を活かして精一杯がんばってきます。



- ★ 鷺出 康太
- ★ フィジー
- ★ 高齢者介護

フィジーのお年寄りが少しでも豊かになるように現地の人々と協力しながら活動したいと思います。2年後、一回り大きく成長した姿を見せられるようにがんばってきます。

25年度 3次隊



- ★ 救仁郷 香
- ★ ネパール
- ★ コミュニティ開発

ネパールの人々の生活改善のために日々奮闘したいと思います。多くの人と語り文化を知り、人を知って楽しんで毎日を過ごしていきたいです。



- ★ 峰元 貴久
- ★ ザンビア
- ★ 理科教育

感謝の心と笑顔を忘れずに2年間のザンビア生活を楽しんで来ようと思います。まずは無事隊員となれたことを多くの人に感謝したいです。



帰国しました

平成25年7月～平成26年1月

青年海外協力隊

榎木 翔一	ソーシャルワーカー	ベナン
日高 樹奈	青少年活動	ニカラグア
シニア海外ボランティア		
進藤 鈴子	日本料理	モロッコ
田中 久雄	船舶機関	インドネシア

会員募集中です。

1人の多くの人々の応援が、海を越えた若者たちを勇気づけ、そのエネルギーが地球中に広がります

年会費：① 個人会員：5,000円/口 ② 特別会員：10,000円/口

振込先：鹿児島銀行卸本町支店（普）829067

名義人：鹿児島県青年海外協力隊を支援する会 会長 衛藤威臣

なお 会員のみなさまには 月刊誌「クロスロード」が送付されます



編集後記

東日本大震災の際帰国中だった川原さんはすぐに自分にできる支援を開始し、被災地でアフリカを見たと話していました。安心を与えるためにずっとそばにいたいこと、現地の人にとって支援されるだけでなく「ありがとう」と言ってもらえるような役割を持つことの大切さは、どの支援活動でも共通する姿勢であり、協力隊活動の原点であると改めて感じました。